

## 都市部における余暇満足度の特性

○土屋 薫（青森大学）、澁谷泰秀（青森大学）

### 1. はじめに

実証的研究を通じて余暇行動を理解しようとする研究者にとって、余暇満足度や余暇退屈度等の尺度の開発及び信頼性と妥当性に関する研究は不可欠である。

本研究は、昨年度に引き続き、都市部住民を対象にした調査結果から余暇行動モデルを構築する足がかりを得ようとするものである。本年度は特に、余暇満足度のスケールに焦点を当てる。なお用語に関して、本研究においては、余暇とレジャーを同義のものとして扱う。

### 2. 研究の方法

#### (1) 余暇満足度 (Leisure Satisfaction Scale)

本研究では、Beard と Ragheb (1980) によって作成された余暇満足度に関する調査票のショートバージョン (6つのサブスケール各4項目で構成され全体で24項目) の改善版を使用した。この改善版は、我々が青森市の20才以上を対象に1998年に行ったパイロット調査の結果に基づいて作成されたものである。項目数はトータルで18項目、サブスケール数は6つ (サブスケール数及び内容はオリジナルと同様) であり、各サブスケール3項目ずつの構成である。

#### (2) 仮説と分析手法

検定すべき仮説は、下記の2点である。

1. 余暇満足度 (Leisure Satisfaction) は6つの因子 (Psychological, Educational, Social, Relaxational, Physiological, Aesthetical) から構成される。
2. 余暇満足度が向上すると、余暇行動の頻度は向上する。

また、計量心理学的古典理論に基づいた基本的統計分析 (記述統計分析、度数分布分析、信頼性分析、相関分析、因子分析) を行った。

#### (3) サンプル

本研究は、青森市調査に引き続き行われた全国の都市部を対象にした調査研究である。サンプルは、札幌、東京、名古屋、大阪の4地点から行われた。回収された317票が本研究のサンプルである。

### 3. 結果と考察

#### (1) 余暇満足度のトータルスコア

余暇満足度の具体的な設問は表1に示した。また、信頼性に関する項目除外統計値等の詳細は表2に示した。

余暇満足度のトータルスコアは平均103.41で、青森における平均値の77.50を大幅に上回った。また、標準偏差は28.08で、これも青森の20.26を大きく上回った。総合点の尖度 (Kurtosis) は.517で歪度 (Skewness) は-.564であった。青森においては総合得点の尖度 (Kurtosis) が-.351で歪度 (Skewness) が-.035であり分布はほぼ左右対称な分布であったのに対して、都市部では Heavy Tail でやや Negative Skew の傾向が見られた。しかし、総合点の度数分布の正規分布からの逸脱は、大きくなく分布の形状もほぼ正規分布を近似するものであった (図1)。

表 1. 余暇満足度の質問票

あなたの行っている余暇活動についてうかがいます。  
(○印は各行にひとつずつ)

	全 く そ う と は 思 わ な い	ほ と ん ど そ う と は 思 わ な い	あ ま り そ う と は 思 わ な い	ど ち ら と も 言 え な い	た ま に そ う だ 思 う	し ば し ば そ う だ 思 う	常 に そ う だ 思 う
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
私は余暇活動を楽しんでいる。	1	2	3	4	5	6	7
私は、余暇活動のおかげで自信をつけた。	1	2	3	4	5	6	7
余暇活動が私に達成感を与えてくれる。	1	2	3	4	5	6	7
余暇活動の賜で、いろいろなことをおぼえた。	1	2	3	4	5	6	7
余暇活動が、何か新しいことに挑戦する機会を与えてくれる。	1	2	3	4	5	6	7
私の行っている余暇活動は、自分自身について知る機会を与えてくれる。	1	2	3	4	5	6	7
私は、余暇活動を通じて、いろいろな人々と交流がある。	1	2	3	4	5	6	7
余暇活動のおかげで、いろいろな人々と友情を結ぶことができた。	1	2	3	4	5	6	7
余暇活動で仕合う人々は親切な人が多い。	1	2	3	4	5	6	7
私の行っている余暇活動は、リラックスするのに役立っている。	1	2	3	4	5	6	7
私の行っている余暇活動は、ストレス解消に役立っている。	1	2	3	4	5	6	7
私の行っている余暇活動は、情緒を安定させるのに貢献している。	1	2	3	4	5	6	7
私の行っている余暇活動は、高度な運動能力を必要とする。	1	2	3	4	5	6	7
私は、自分の運動能力を発達させるような余暇活動を行っている。	1	2	3	4	5	6	7
私の行っている余暇活動は、自分の体力増進に役立っている。	1	2	3	4	5	6	7
私は、自分が余暇活動をしている場所に、なんとなく興味が湧いて心 ひかれる。	1	2	3	4	5	6	7
私が余暇活動をしている場所は、景観が美しく見事である。	1	2	3	4	5	6	7
私が余暇活動をしている建物は、設備が見事でし地よい。	1	2	3	4	5	6	7

表 2. 余暇満足度の信頼性分析

項目	項目除去 平均	項目除去 分散	項目・総合点 相関	項目除去 アルファ
LSS1	72.0576	392.7756	0.6639	0.9342
LSS2	72.7763	389.4396	0.7145	0.9331
LSS3	72.3797	388.7057	0.7740	0.9320
LSS4	72.1322	391.4144	0.7475	0.9326
LSS5	71.8746	396.0284	0.7096	0.9334
LSS6	72.1864	393.8801	0.7439	0.9328
LSS7	72.1593	387.6718	0.7122	0.9331
LSS8	72.2407	388.9793	0.7101	0.9332
LSS9	72.1898	393.3924	0.6965	0.9335
LSS10	71.7119	396.5732	0.6711	0.9341
LSS11	71.5017	397.1556	0.7088	0.9335
LSS12	71.6475	397.3991	0.7021	0.9336
LSS13	73.6678	396.8757	0.5654	0.9364
LSS14	73.5322	391.4063	0.6133	0.9354
LSS15	73.2000	388.9837	0.6148	0.9356
LSS16	72.6237	394.1334	0.6435	0.9346
LSS17	73.3593	404.4283	0.4457	0.9390
LSS18	73.8407	412.6786	0.4181	0.9387

標本数 : 287      項目数 : 25      アルファ = 0.9378

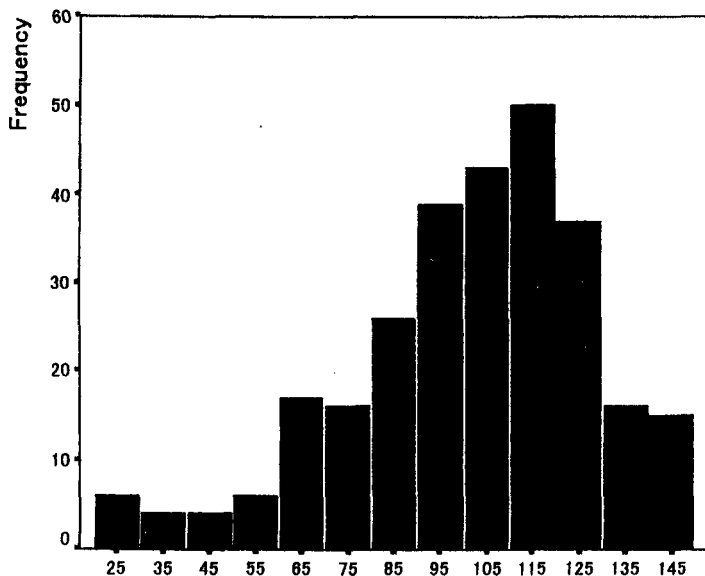


図1. 余暇満足度の総合点

(2) 余暇満足度とそのサブスケール

サブスケールスコアの平均は、Physiological (生理学的満足度) が最も低く 9.91 で、Relaxation が最も高く 15.53 であった (表3)。Relaxation は、他のサブスケールと比較して高い満足度を生み出し、しかも、被験者間の個人差は他のサブスケールと比較して小さかった ( $\sigma=4.18$ )。すなわち、大多数の人は余暇によるリラックス効果を享受していると考えられる。一方、Physiological (生理学的満足度) の特徴は、平均的満足度は低い標準偏差が大きいこと、また運動を行うグループと運動を行わないグループで満足度のレベルが大きく異なる点である。すなわち、この種の満足を得る人たちは、余暇を楽しむ人たちの中でも一部に限られていると考えられる。

表3. 余暇満足度の総合点及びサブスケール (信頼性)

	N	Minimum	Maximum	Mean	Std. Deviation	Alpha
Classical Total Score for LSS	287	25	175	103.41	28.08	.940
Psychological Satisfaction	314	3.00	21.00	13.0637	4.6269	.890
Educational Satisfaction	311	3.00	21.00	14.0354	4.3085	.910
Social Satisfaction	315	3.00	21.00	13.6635	4.8369	.930
Relaxational Satisfaction	310	3.00	21.00	15.5290	4.1840	.920
Physiological Satisfaction	311	3.00	21.00	9.9100	5.2226	.920
Aesthetic Satisfaction	303	3.00	21.00	10.4950	4.1654	.760

### (3) 余暇満足度の因子分析

全項目（18 項目）を用いた因子分析（Promax rotation; Kiser Normalization ; Kappa=4）で 1.0 以上の固有値（eigenvalue）を持つ因子は 4 因子であった。結果は表 3（因子寄与率など）に示した。各因子に対する寄与率は 4 因子全体で 75.224% となり、項目数が 18 であることを考慮すると、十分に高いと考えられる。また、斜交解（Promax rotation）に基づいた固有値（Total）は、9.058 から 1.079 で、第一因子のウエイトは他の因子と比較して圧倒的に高かった。

表 3. 余暇満足度(18項目)の因子分析

Component	Initial Eigenvalues			Extraction Sums of Squared Loadings			Rotation Sums of Squared Loadings <sup>a</sup>		
	Total	% of Variance	Cumulative %	Total	% of Variance	Cumulative %	Total	% of Variance	Cumulative %
1	9.058	50.325	50.325	9.058	50.325	50.325	8.204		
2	1.968	10.933	61.257	1.968	10.933	61.257	5.059		
3	1.435	7.973	69.230	1.435	7.973	69.230	6.239		
4	1.079	5.994	75.224	1.079	5.994	75.224	3.666		
5	.996	5.531	80.755						
6	.591	3.284	84.039						
7	.526	2.921	86.961						
8	.355	1.974	88.935						
9	.314	1.743	90.678						
10	.297	1.650	92.328						
11	.277	1.537	93.865						
12	.245	1.364	95.229						
13	.204	1.135	96.364						
14	.183	1.018	97.382						
15	.162	.900	98.282						
16	.137	.764	99.045						
17	.112	.625	99.670						
18	5.939E-02	.330	100.000						

Extraction Method: Principal Component Analysis.

a. When components are correlated, sums of squared loadings cannot be added to obtain a total variance.

### 5. まとめ

都市部における余暇満足度の総合点と各サブスケールにおける結果は、青森市における研究結果と同じであった。このことから、次の二点がわかる。すなわち、余暇満足度の尺度は異なるサンプルにおいても安定した推計を提供できる。また、余暇満足度のサブスケール間の特徴は準都市部および都市部で大きな違いが無い。しかし、余暇満足度の平均値は都市部で最も高かった。

(なお、余暇活動を交えた分析は、発表当日資料参照。)

### 6. 参考文献

Beard, J. G. & Ragheb, M. G. (1980), Measuring Leisure Satisfaction. *Journal of Leisure Research*, First Quarter.

濑谷泰秀、土屋薫 1999 「余暇行動モデルの行動計量学的分析」平成 11 年度私立大学等経常費補助金特別補助事業報告書

土屋薫、濑谷泰秀 2001 「余暇満足度の測定と施策展開の可能性に関する基礎的研究」、青森大学研究紀要第 24 巻第 1 号